

令和7年度 第1回 地域連携推進会議 議事録（落穂寮）

1. 日 時：令和8年3月11日（水） 13:00 ～ 14:00
2. 場 所：障害者支援施設 落穂寮 管理棟 地域交流室
3. 出席者：
外部委員：3名（地域代表、福祉関係者、グループホーム利用者、利用者家族）
施設側：3名 理事長（グループホーム管理者）、施設長、事務局（進行・記録）
4. 次第：
 1. 開会のあいさつ
 2. 地域連携推進会議の目的説明・自己紹介
 3. 施設概要説明・現状報告
 4. 施設見学
 5. 意見交換
 6. 閉会のあいさつ

5. 議事概要

(1) 施設概要および現状報告

利用状況：定員50名に対し、現在全定員が利用中。利用者の多くは障害支援区分6の重度の方である。

運営方針：権利擁護の意識向上を最優先事項とし、不適切な事案の再発防止に向けた研修（アンガーマネジメント等）や、障害特性の再把握を目的としたケース会議を定期的実施している。

高齢化への対応：利用者の平均年齢が50歳を超え、身体機能の低下や加齢に伴う疾患の併発が見られる。残存機能の維持と心身の安定を目的とした「動く・活動する」支援を強化している。

課題：24時間体制の看護師配置がないため、医療的ケアが必要となった際の対応や、人材確保および職員育成（倫理観・対人援助の基本習得）が喫緊の課題となっている。

(2) 施設見学

生活棟（男子棟、女子棟、多機能棟）の見学を実施。

障害特性や身体状況に応じた住み分け（多機能棟への集約等）や、安全確保のための環境整備（見守りカメラの設置理由等）について説明を行った。

(3) 意見交換（主な質疑応答）

問：外出時の安全管理体制や、同行人数に関する法的な決まりはあるか。

答：法的な基準はないが、施設内で個別の外出計画書を作成し、利用者の特性（多動性の有無等）に合わせて職員配置を決定している。他施設での事故例も踏まえ、車での外出時や散歩時の安全確保には細心の注意を払っている。

問：高齢化が進む中で、医療的ケアが必要になった際や看取りについての考えは。

答：現在の体制では24時間体制の医療対応が難しいため、医療ニーズが高まった場合は入院や転院となるケースが多い。今後は施設内での看取りの可能性も含め、体制のあり方が検討課題である。

問：新規入所者の傾向や年齢制限はあるか。

答：原則として18歳以上が対象。現在は区分5、6の重度の方や、在宅での生活が困難な若い世代からの入所希望が多く、地域で最も支援を必要とする方を受け入れる体制を整えている。

6. 閉会

事務局より、本日の貴重な意見を今後の運営に反映させる旨を伝え、閉会とした。